



障がい者、オープンリーLGBT、いろんな個性を持つ人たちがみんな自然体で話し合える、のびのびした雰囲気のおフィス

対等な人間だから、配慮はするけれど遠慮はしない。



株式会社スミセイハーモニー
代表取締役社長
鎌田 恵徳
Kamata Yoshinori
(経済学部 1984年卒)

高松を障がい者活躍の先進地に！

武道の精神に通じる 社会人の心の在り方

香川大学時代の思い出といえば、中学からずっと続けていた剣道に打ち込んだこと。私たちが3年生になるまでは監督がいなかったのですが、4年生の天下でした。来年はやると我々が自由にやれるぞーと思っていたところへ、4つ年上の山神眞一先生(現香川大学副学長)が初代監督に就任されることになって、指導方針も大きく変わったりしてよく衝突をしたのも懐かしい思い出です。

当時は経済農教育の3学部に加えて、法学部ができて間もない頃でした。剣道部は同期がわずか5人。主将を務めた4年時に、23年生と共に大会に出ました。順調に勝ち進んで中四国代表となり、日本武道館での全国大会でベスト16に入賞しました。この成績は今でも破られていないと聞いています。

社会で重要なのは 学力より総合力

卒業と同時に住友生命に入社し、生命保険販売に携わって30年余り、支部長本社室長高松を含む支社長本部長も学歴も問われず平等に上を目指せる環境だったので、頑張れば評価されるのが面白くて、学力とは「受験勉強にどれほど集中できたか」、心の在り方や総合的な判断力とは「まったく別物だと感じたものです。社会人として大事なものはむしろ総合力の方で、勉強以外にも大切なものがあることは、学生にも知っておいてほしい。」

すべての人が持つ力を発揮することが理想ですが、現実には考え方に個人差があり、頑張れと言われるとやる気がなくなる人もいますよね。最大の力を発揮するためには心の在り方がとても大事です。仕事にしても、「相手の心が読めたらどんなにいいか」と考えたし、わからなくても意識し考えることで近づけることができると知り、「こうしたら、相手はどんな反応をする

か？」をうまくつかめたら、いろんなことがうまくいくようになる。武道も同じで「剣道の道はすべての道に通ず」ですね。

企業や大学と連携し 障がい者に活躍の道を

グループ会社である株式会社スミセイハーモニーの代表の話を読んだのが5年前。私自身障がいのある子供がいることもありぜひやりたいと思いました。当社は「働く意欲のある障がい者に雇用創出提供すること」を目的に設立された特例子会社で、280人の職員のうち230人が障がい者です。

企業理念は「互いに個性・障がい特性を理解・配慮し持てる力を発揮し、やりがいと達成感を感じられる風土づくり」、そして「人として成長し地域社会で活躍できるための教育機会の提供」です。成長のキーワードは「人の気持ちが変わる事」です。障がいのある無にかかわらず自己中心ではなく、常識やマナーを身につけて他人の心に寄り添える人になることを大切にします。

全国に展開する第2歩として、2020年に高松オフィスを設立しました。良く知る郷土だから成功できる！と決断しました。4名でスタートしたオフィスも現在7名の障がい者と2名の支援員がいます。地方都市はまだ障がい者理解が遅れている部分もあり、障がい者をオープンに出来ない閉鎖的なところが残っています。

高松を「ダイバーシティモデル都市」「マイシティに優しい都市づくり」の先進地とし、障がい者も気兼ねなく

堂々と活躍できるよう地域の感覚や風土を変えたいんです。

そのためには、地域の企業や大学行政が体になって取り組む必要があります。

障がい者雇用は積極的な企業はまだ少ないですが、郷土愛あふれる経営者は多く、中小企業家同友会の多様性委員会のメンバーと共に啓発に努めています。

講師の機会も増え、全国から声もかかるようになってきました。香川大学でもチャンスがあれば！と思っています。また臨床心理や看護の学生たちにも、「障がい者支援という就活の選択肢もある」とことを知ってもらい、障がい者の社会活躍を支える人材を増やすことも目標の一つです。

発達障がいのある学生も各大学に1割弱程度いるのでは？と言われていました。

就職において自己理解・受容は重要であり、在学中に出来るようになるれば就活にまずく学生も減ると思います。「新卒」に関し企業と大学の就労支援連携は重要で、特に大学の役割は重要だと思います。

よく「障がい者にどう接しただいいか」と聞かれますが、普通でいいんですよ。配慮はするけど、特別視も遠慮もしない。D&I(ダイバーシティ&インクルージョン)という言葉の本質を考えなくてはなりません。「障がいがあるから助けてあげよう」は全然ダイバーじゃない。みんな同じ人間だという感覚で、あくまで「困っていたら」手を差し伸べればいいんです。障がい者だろうと健常者だろうと、根性論に拠らず「苦手なことはできる人に回して、自分が得意なこと頑張る」のが当たり前。そんな社会をここから実現していきたいですね。